

学校教育目標

- ・やさしい子
- ・よく考える子
- ・がんばる子

めざす学校像

「みんなが元気で明るい
きれいな学校」

〒350-1315 狭山市北入曽980

TEL 04-2958-2718

Fax 04-2958-2719

マリーゴールド

校長 加藤 仁

校庭の東側の花壇にマリーゴールドが鮮やかに咲いています。先日栽培委員会の児童が植えたものです。

マリーゴールドは花を長く楽しむことができ、学校の花壇には最適だと思っています。また、独特のにおいのため、害虫が来ないという長所を持っています。そのマリーゴールドを校舎から見ると、オレンジや黄色の花が南側に伸び、とても美しく、また、温かな気持ちにさせてくれます。

花を植える前は、雑草が生い茂っていました。とても一朝一夕では抜けそうもありませんでした。そのため、どうしようかと困っていた場所でした。そこが、きれいな花壇に変身したのは、菊地さんや菅井さん、穂坂さん、木藤さんたち学校ボランティアの有志の方々のお蔭なのです。雑草を抜き、土を柔らかくしていただいたところで、子どもたちは嬉しそうに花の苗を植えていました。皆さんお忙しい方々なのに、時間をやりくりしてくださり、学校や子どもたちのために汗を流していただきました。また、子どもたちが土に触れ、豊かな心を育む機会を与えていただいたことに心より感謝しています。

その作業の日の朝、私は子どもたちの登校の見守りを終え、その方たちのおひとりの方と並んで学校に向かって歩いていました。その時「学校は地域のシンボルだから・・・」というお話を伺いました。何気なく話されたその一言が私の心にすごく残っています。とてもありがたい言葉でした。おそらく、学校にボランティアで来てくださる多くの方が、このような気持ちで学校のために働いてくださっていると感じました。

しかし、同時に、この言葉は私にとってある種の緊張もいただいた感がありました。「地域のシンボル」である学校、そこで学ぶ子どもたちを地域の皆様の期待に応えられるよう育てていかなければならないという思いが心に広がってきたのです。

今年度から学区が広くなり、学校の沿革に新たな1ページが記され、3か月が過ぎました。この3か月、お蔭様で入間小からの児童たちと前から入間野小にいた児童たちは仲よくできているようです。6年生のミニバスケットボール大会で、御狩場小学校の子どもたちとの対戦の様子等を見ても、本当にチームワークよく戦っていました。しかし、やはり大勢の子どもたちが転入し、職員も大幅に変わり、課題もあります。入間小でできたことが入間野小ではできなかつたり、あるいはその逆のこともあります。また、児童一人ひとりを見ると、もっともっと伸びてほしいという思いもあります。入間小が地域のシンボルとして長年培ってきたことを入間野小が引き継いでいかなければならないとも思っています。

毎日子どもたちの登校を見守ってくださり、また、進んで学校の花壇を耕してくださった方は、年配の方々に、まさに伝統を築いてくださった方々です。そのような方の言葉には重みがあります。

さてマリーゴールドの花言葉は「信頼」です。今、学校で美しく咲いている花に奥の深い意味があるように感じています。



マリーゴールド

6月の行事から：



6 / 7 ミニバスがんばれ朝会



6 / 11 学校公開



6 / 11 芸術鑑賞教室



6 / 14 S SVCの皆様による学習支援

本好きな子どもに(読み聞かせのボランティアの方、募集します)

長女が生まれたとき、父が「本好きな子どもに育てると後で楽になる・・・」というような話をしてくれました。我が家は男同士の会話があまり多くなかったので、この言葉はよく覚えています。私はそのための努力をほとんどしなかったのですが、妻が結構図書館に子どもを連れていったり、本を買ったりしてくれたので、お蔭様で子どもたちは本好きに育ちました。さて、学校でも子どもたちに読書の機会を多くと考えています。やはり本好きな入間野小学校児童に育ってほしいと思っています。保護者の方の中で、図書ボランティアでご協力いただいている方もいらっしゃいます。ただ、残念なのは、読み聞かせのボランティアの方が少ないことです。子どもたちは色々な方から本を読んでもらうことをとても楽しみにしています。今までの学校での経験からこれは明らかです。ぜひ、読み聞かせのボランティアの方が増えることを願っています。やってみようかなと思われる方は担任か教頭または教務主任に、ぜひご連絡ください。

カブトムシやクワガタムシ

私が小学生の頃、新所沢駅の東口は林が広がっていました。家など無く、駅のすぐわきから雑木林で奥には沼のような水がたまっているところがありました。子どもでは奥に入っていくのはとても怖い場所でした。それでも、夏休みに入ると、毎日のように早起きをして、その林に通いました。そこには大好きなカブトやクワガタがいたのです。その結果、金属製の鳥かごにいっぱいのカブトを飼っていました。クワガタはカブトほどは捕れませんでした。つい昨日のここのような、しかし今ではなつかしい思い出です。